

教育学研究科修士課程 臨床心理学専攻（2015年度以降 第1学年次入学者適用）

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力	科目概要（2022年度シラバスより）
			①臨床心理学、心理臨床学領域に関する高度な専門的知識をもち、「臨床心理士・公認心理師」の資格を得るに十分な実践技能を身につけている	②臨床心理学領域の近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている	
専攻科目	臨床心理学特論 1	2	◎		○		○			(1) 臨床心理学的視点とはどのようなものか (2) 臨床心理学の歴史的展望 (3) 心理臨床的な面接の実践問題 (4) 心理臨床に求められる「倫理」事項
	臨床心理学特論 2	2	◎		○		○			臨床心理の援助専門職として、自分自身の課題にどのように取り組んでいくのか、自らの特性を理解し、それを効果的な援助にいかにか活かしていくか、大学院での臨床心理の学びをいかに豊かなものにしていくかについて学ぶことを目的とする。
	臨床心理面接特論 1	2	◎		○		○			前半では病態水準に応じた夫々の心理療法を学ぶ。後半では、箱庭療法とユング心理学（夢分析、描画療法）の実践（それらの適用の可否）を学ぶ。
	臨床心理面接特論 2	2	◎		○		○			心理臨床家と来談者が互いに向き合う「面接」は、心理臨床実践の中核とも言える。その特質を、基本理論と実際の面接において生じてくる問題の双方から具体的に検討し、心理臨床面接の本質を探る。
	臨床心理査定演習 1（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	◎			○	○			臨床心理アセスメントは、人間理解の一つの方法として非常に重要なものである。本授業では、臨床心理アセスメントを行う際の基本的な考え方と留意点について学んでいく。中でも、発達検査を中心に取り上げ、理論的背景及び施行法、所見の作成から結果のフィードバックについて演習を交えて学び、臨床心理的援助にどのように生かしていくのかを検討する。
	臨床心理査定演習 2	2	◎			○	○			臨床心理査定能力の醸成 ～ロールシャッハ法を臨床に活かす～
	臨床心理査定演習 3	2	◎			○	○			多くの心理臨床の現場で用いられているウェクスラー式知能検査の基本的な考え方と留意点を学ぶとともに、検査実施要領、結果の処理法、解釈法、報告書の書き方を学び、実際の臨床場面での活用をめざす。
	臨床心理査定演習 4	2	◎			○	○			心理査定の基本的な考え方と留意点を学ぶとともに、TATの施行法・解釈法を学び、実際の臨床場面での活用をめざす。TATのカードごとに解釈のポイントを学んだ上で、実際にTATを実施し、その検査結果の報告書作成までを行う。
	臨床心理基礎実習 1	1	◎			○	○			本実習は、臨床心理実習の基礎に位置づけられ、講義科目と有機的に関連した構成となっている。ここでは、臨床心理学の理論と方法を実践に生かすための基本的姿勢について確認した上で、将来、臨床心理士として活動するために欠かすことのできない素養や技能を学んでいく。
	臨床心理基礎実習 2	1	◎			○	○			授業の概要インターク面接の理論と実際を学ぶインターク・ロールプレイ実習
	臨床心理実習（心理実践実習（医療））	4	○	◎				○	○	医療機関での心理臨床の体験
	臨床心理実習（心理実践実習（教育））	4	○	◎				○	○	幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校、教育センターなどでの実習活動と学内でのグループスーパーヴィジョン
	心理実践実習（福祉）	4	○	◎				○	○	福祉分野の施設において、援助技術、チームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理・法的義務の理解等についてケース担当を含む心理臨床実習を行い、それに対するグループスーパーヴィジョンを実施する。
	心理実践実習（犯罪・産業）	1	○	◎				○	○	司法・犯罪および産業・労働分野の施設に赴き、現場の見学および体験実習を行う。各施設における要支援者等に関する知識を深めるとともに、多職種連携、法的義務等について学ぶ。
	臨床心理実習 1	1		○		○		○	◎	担当事例の発表及びカンファレンス
	臨床心理実習 2	1		○		○		○	◎	担当事例の発表及びカンファレンス
	臨床心理学研究指導演習 1	1				○		◎	○	修士論文のための研究テーマの選定、適切な調査方法や分析方法についてディスカッションを行う。研究計画書の立案に際しては、倫理面も含めた方法の適切さ、分析方法の妥当性や得られると予想される結果の意義についても検討していく。
	臨床心理学研究指導演習 2	1				○		◎	○	修士論文のための研究テーマの選定、適切な調査方法や分析方法についてディスカッションを行う。研究計画書の立案に際しては、倫理面も含めた方法の適切さ、分析方法の妥当性や得られると予想される結果の意義についても検討していく。
臨床心理学研究指導演習 3	1					○		◎	収集したデータを多角的に検討することによって、研究の意義を明確化し、修士論文の内容の質を高め、一定水準以上の修士論文に仕上がるように添削指導を行う。	
臨床心理学研究指導演習 4	1					○		◎	収集したデータを多角的に検討することによって、研究の意義を明確化し、修士論文の内容の質を高め、一定水準以上の修士論文に仕上がるように添削指導を行う。	

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 獨創性		4) 総合力		科目概要 (2022年度シラバスより)
			①臨床心理学、心理臨床学領域に関する高度な専門的知識をもち、「臨床心理士・公認心理師」の資格を得るに十分な実践技能を身につけている	②臨床心理学領域の近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている		
A群	心理学研究法特論	2			○	◎	○				質問紙調査法は身近でなじみ深い研究方法の一つであるが、心を測定する「ものさし」を標準化し、信頼できるデータを得ることは容易ではない。心理学の研究・実践を価値あるものにするためには、何よりもまず、妥当な測定が必要不可欠である。本講義では、サンプリングや研究倫理に関する諸問題から、心理尺度のつくり方・つかい方、心理測定法の基礎理論の概説などを行う。
	臨床心理学研究法特論	2			○	◎	○				臨床心理学における研究法を概説し、研究の意義について、受講生の研究発表と論文読解とを交えつつ学ぶ。さらに、研究を実際に立案、実施、まとめることを通じて質的研究の手法を学ぶ。
	心理統計法特論	2			○	◎	○				統計ソフトを用いた多変量解析(重回帰分析や因子分析)の方法および結果の報告方法について講義と演習を通して学ぶ。また、必要に応じて修士論文に向けて収集しているデータを利用したデータ解析も行う。
B群	認知心理学特論	2	◎		○		○				人間の感性(印象や美しさなどの判断、好みの形成など)について、写真や絵画、顔の印象などを題材に、知覚心理学や認知心理学の研究を紹介する。
	生涯発達心理学特論	2	◎		○		○				各発達段階における心理的・社会的課題について確認した上で、各段階における心理臨床事例について検討するとともに、具体的なアプローチ方法について学んでいく。
C群	家族臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2		◎	○		○				①集団としての家族理解へのアプローチ②家族療法・面接の理論と事例検討③地域社会における臨床実践現場の諸問題
	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2		◎	○		○				刑務所、少年院、保護観察、家庭裁判所などの犯罪領域におけるアセスメントの方法や治療に関する文献を調べ、発表し、ディスカッションによって理解を深めていく。
	人間関係学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2		◎	○		○				産業・労働分野における実践活動は、これまででも心理援助職が活躍してきた分野であるが、社会状況の変化にともない、今後益々、重要な役割を担うことが予想される。本科目では、産業・労働分野で実践活動を行う上で主要となるテーマに加え、重要となる理論や支援のあり方等について学ぶ。
D群	障害心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2		◎	○		○				障害を分類(身体、発達、精神)し、それぞれに関して、身体的な視点と心理的な視点と社会的視点から総合的に学ぶ。
	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2		◎	○		○				豊富な実習体験のない受講生に、精神病院の実態や精神疾患患者の実態を、映像(イメージ)を通して学んでいく。
	精神薬理学特論	2		◎	○		○				この集中講義では精神薬理学を臨床心理学に生かす視点を考えます。担当者は精神科病院で働く精神科医であり、精神科薬物療法とユング派夢分析療法を併用する診療を試みています。精神薬理学は抗うつ薬や抗精神病薬などの向精神薬の薬理作用を研究する分野であり、向精神薬の薬理を学ぶことは私たちの精神活動を脳の視点から考えるのに役立ちます。1日目(第1~5回)には、向精神薬の作用機序を取り上げ、睡眠障害・統合失調症・うつ病・てんかんの病態生理を精神薬理学の観点から検討します。2日目(第6~10回)には、依存症と精神作用物質の精神薬理学を取り上げ、幻覚剤を用いた精神療法(psychodelic-assisted psychotherapy)の可能性を検討します(Pollan, 2018)。1960年代から70年代、人類学者C. カスタネダはメキシコ先住民族の呪術師ドン・ファン・マティスの弟子になりました。そして、そのシャーマニズムの訓練過程において、ウパタマサボテン・チョウセンアサガオ・マジックマッシュルームといった3種類の幻覚性植物による変性意識状態を体験しました(Castaneda, 1969など)。そこで、カスタネダの体験を精神薬理学の観点から再検討し、その知見をユング派夢分析療法に生かしたいと考えます。最終日(第11~15回)には、呪術師ドン・ファンが弟子であるカスタネダのトラウマを扱った方法を再検討します。そして、幻覚性植物を用いるシャーマニズムの観点から、ユング心理学によるトラウマの心理療法を考えてみたいと思います。
E群	学校臨床心理学特論	2		◎	○		○				教育現場では学校臨床心理士(スクールカウンセラー)として臨床心理学的アプローチをおこなうほかに、学びのパートナー、居場所サポーターなど、さまざまなかたちで専門的な関わりをおこなう。その際に、学校現場ならではの難しさを体験することも多い。本講義においては、学校現場に特徴的な困難さを自覚するとともに、それへの対応を考える。その際に、教師の立場を理解するとともに、それとの差異を明確にし、臨床心理学的アプローチの特殊性および学校現場ならではの特殊性を理解する。講義は実践的な方法を取り、事例や体験をもとに学ぶ。
	投映法特論	2		◎		○		○			投映法に関する実践的事例のデータを受講者やゲスト・スピーカーに提供してもらい、解釈・分析して所見作成までの過程を実践的に指導する。
	心理療法特論	2		◎		○		○			「臨床的心理療法(カウンセリング)の基本」について学んだうえで、「心理療法の目標」を考えていく。さらに、「西洋の心理療法」だけでなく、「東洋の心理療法」についても学ぶこととする。 ※2019年度シラバス

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 獨創性		4) 総合力	科目概要 (2022年度シラバスより)
			①臨床心理学、心理臨床学領域に関する高度な専門的知識をもち、「臨床心理士・公認心理師」の資格を得るに充分な実践技能を身につけている	②臨床心理学領域の近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている	
関連科目	教育分野に関する理論と支援の展開	2		◎	○			○		学校教育現場における心理臨床について概説する。
	心理支援に関する理論と実践	2		◎	○			○		行動理論を中心に認知行動療法の適用に向けて、その基礎について説明する。内容としては、ペアレントトレーニングについてふれ、その発展として様々な治療技法について触れる。
	心の健康教育に関する理論と実践	2		◎	○			○		①心の健康教育に関する理論 医療、教育、福祉、産業、司法領域それぞれにおける心の健康教育のための知識を学ぶ。心理に影響する、身体的、社会的、霊的状况に関する知識を整理する。②心の健康教育に関連したサポートや介入法 身体ワーク（リラクゼーション法）、マインドフルネス、自助グループなどを学ぶ。③心の健康教育に関する実践 心理的な困難さを持つグループの人たちを想定して、その人たちにどのような心理教育ができるのかを考えてもらい、模擬的に発表してもらおう。
	心理学特別演習 1	2								本授業は、日本で生まれた内親療法について体験的に学ぶ。具体的には、内親療法発祥の内親研修所に宿泊して、講義を聞いたうえで、内親実習を実際に体験しながら学ぶ。 ※2019年度シラバス
	心理学特別演習 2	2								